



くまざさ



新らしい百年へ次の一歩

新釧路湖陵同窓会 会長 島本幸一さん (湖陵19期)

島本さんは昨年8月の同窓会総会で、栗林延次さん(湖陵17期)のあとを受け、会長に選出されました。島本さんに高校時代の思い出や抱負などを聞いてみました。

星 匠(湖陵30期)

「開校100周年を終えて 栗林前会長から「祝賀会は1000人規模で」との考えを聞いて「一大イベントとしては是非成功させたい」との思いを強くしました。企画、運営と手作りでしたが、各部長

を中心によくがんばってくれました。さすが湖陵生でした。

— 高校時代の思い出
生物部の魚類班として春採湖などでイトヨなどを採取していました。先輩に誘われて摩周岳登山にも行きました。摩周湖の透明度の高さ、頂上で食べた夏みかんの味は忘れられません。でも、無届けだったので、顧問の豊島正俊先生から怒られました。(笑)

同窓会の積み重ね 100周年成功へ



島本 幸一

— 同窓会について
毎年8月に開催される同窓会総会は、当番期制です。当番期になったことをきっかけに、同期の横のつながりが生まれます。この積み重ねが100周年の各事業が成功に終わった基礎になっていきます。何

— 同窓会とのかかわり
副幹事長で同窓会にかかわり始め、栗林さんが会長になり、幹事長に就きました。同窓生は、湖陵高校を卒業したことに誇りを持っています。特に校歌

がいいですね。釧路中学、釧路高等学校、釧路湖陵高校と変わりましたが、校歌は

変わっていません。同窓会で校歌を歌うと、同窓生の心が一つになります。若い頃はあまり思いませんでしたが、何かに迷った時、校歌を思い出すと人間としての何かを思い出させてくれます。

もないところから始めても無理がありません。このシステムをつくりあげた先輩たちに感謝します。今後も、各支部も含めて同窓会が盛大に行われ、同窓生同士の団結力や結束力を強くしてほしいです。

目次

創立100周年記念事業報告	2・3頁
誠愛勇から 湖陵18期の巻	4・5頁
親子三代釧中・湖陵百年紀(柴田さん)	6頁
教職員湖陵会だより	7頁

私と大鵬	7頁
同窓会だより	8頁
故郷	8頁
編集後記	8頁

記念事業実行委から報告

北海道釧路湖陵高等学校創立100周年・定時制90周年記念事業は、すべての事業を終了しました。実行委員会各部会から事業報告を行います。

・場所 湖陵祭行灯コース（湖陵高校↓工業高校前↓久寿里橋↓栄町公園↓北大通↓幣舞橋↓日本銀行（当時）横↓城山交差点↓城山小学校↓学園高架橋↓湖陵高校・約5^分）

・参加者 教職員、生徒、同窓生 870人

・内容 同窓生70人は、絆纏を着て提灯を持って行灯行列に参加。絆纏は、記念式典終了後に、学校へ寄贈。

【式典部会】

A) 講演会

・日時 2012年6月26日（火）13時30分～15時20分

・場所 釧路湖陵高校体育館

・参加者 教職員、生徒、同窓生、一般

1,046人

・講師 NPO法人「ロシナンテス」代表 川原尚行氏

・テーマ 「意志あるところに道拓けるか？ スーダン・東日本大震災での活動」

・内容 川原氏より、東日本大震災直後、救急車で宮城県入りして医療活動、その合間を縫ってがれきの撤去作業なども行った際、高校時代の仲間のありがたさを感じたこと。スーダンでの医療活動では、外務省を退官して取り組みました。肩書のいらぬ故郷の温かさに触れ、地元への愛を訴えました。

B) 提灯行列

・日時 2012年7月13日（金）18時30分～20時30分

C) 記念式典

・日時 2012年9月29日（土）13時～16時

・場所 釧路市民文化会館

・参加者 教職員、生徒、同窓生、一般

1,500人

・内容 式典（13時から14時30分）①修礼②開式の辞③物故者への黙祷④国歌斉唱⑤学校長式辞⑥同窓会長挨拶⑦実行委員長挨拶⑧PTA会長挨拶⑨感謝状贈呈⑩受賞者代表謝辞⑪シンボルマーク・キャッチフレーズ受賞者表彰⑫記念事業目録贈呈⑬祝辞⑭来賓紹介⑮祝電・祝文披露⑯生徒代表のことは⑰校歌斉唱⑱閉会の辞⑲修礼

・内容 アトラクション（14時45分～16時）①器楽部 演奏「さくらのうた」「バレエ音楽 火の鳥」②VOK 全日制課程の「今」を映像で紹介③応援団 有志の生徒による応援演目④定時制ビデオ上映「定時制の紹介」⑤合唱部 演奏「あすへ続く道」

【祝賀会部会】

○記念祝賀会

・日時 2012年9月29日（土）18時～20時15分

・場所 釧路市国際観光交流センター

・参加者 同窓生、来賓 1,194人

・内容 ①開会・オープニングムービー②校歌斉唱③実行委員長挨拶④来賓挨拶⑤学校長挨拶⑥PTA会長より100周年記念事業報告⑦乾杯⑧VOK作成ムービー上映⑨各地湖陵会の紹介⑩酒井理恵ライブ⑪六文銭ライブ⑫記念品贈呈⑬閉会挨拶・閉会

【記念誌部会】

・名称 「誠・愛・勇の湖陵百年」

・刊行日 2013年1月31日

・製作冊数 学校、高額寄付者への贈呈、一般販売 2054冊

・ページ数 A4サイズ 400ページ

・内容 ①序章（校訓、校旗、校歌、校舎）②挨拶③歴代校長④創立百年・定時制九十周年記念事業⑤写真で見る釧中・湖陵史⑥い

ろいろな思いを⑦湖陵アラカルト⑧資料編⑨創立百周年・定時制九十周年記念事業協賛者ご芳名一覧⑩資料提供者⑪編集後記・奥付

【記念事業部会】

○贈呈品一覧

①記念誌「誠・愛・勇の湖陵百年」1,100冊②記念碑 コタンコロカムイ（米坂ヒデノリ氏作）及び中庭整備③大型電動スクリーン、プロジェクター及びプロジェクター台④記念植樹 蝦夷山桜10本、千島桜1本⑤テーブル4台、ロビーチェア8脚⑥照明機材 スポットライト2個、ダウンライト5個⑦来客用スリッパ 300足⑧楽器 バスクラリネット、バリトンサクソフォン、チューバ、バスーン⑨グラウンド用時計⑩式典用白布⑪特別教室用時計 10個⑫図書室用ソファ 2脚⑬ワイヤレス拡声器

【総務部会】

○事務局運営、同窓会会員への案内業務

・期間 2011年6月1日～2013年3月31日

・案内 同窓生8,000人・教職員、生徒1,000人

事業部会収支決算書

【収入の部】

項目	予算	決算	概要
事業積立金	¥10,000,000	¥10,060,087	
雑収入		¥2,410	普通預金利息
協賛寄付金	¥25,000,000	¥21,759,548	1,432件
企業広告金		¥12,280,000	167件
記念祝賀会		¥5,950,000	1,190件
記念誌販売代金		¥6,160,000	770件
合計	¥35,000,000	¥56,212,045	

【支出の部】

項目	予算	決算	概要
式典部会	¥4,920,000	¥4,413,852	講演会(¥754,721)、堤灯行列(¥664,684)、記念式典(¥2,994,447)
祝賀会部会	¥3,000,000	¥8,930,307	飲食(¥5,900,000=釧路キャッスルホテル・釧路全日空ホテル)、記念品(¥588,000=トートバック~杉村商店)、設営(¥506,820=会場設備・プロジェクター他)、アトラクション(¥442,000=六文銭・酒井理恵)など
記念誌部会	¥2,100,000	¥4,978,415	記念誌製作(¥4,132,800=@4,305*960冊)、発送(¥658,304=封入文書、梱包、送料)、会議(¥135,249=キャッスルホテル・竹老園・醍醐ほか)など
記念事業部会	¥17,000,000	¥16,188,546	記念誌購入(¥4,804,286=@4,305*1,100冊ほか)、電動スクリーン(¥1,785,000)、記念碑(¥3,555,650=米坂ヒデノリ氏ブロンズ像・寄贈プレート)、楽器(¥2,990,000=バスクラリネット、バリトンサクソ、チューバほか)、照明機材(¥566,895=スポットライト2個・ダウンライト5個)、記念植樹(¥518,700=チシマザクラ、エゾヤマザクラ)・テーブル(¥397,320=4台ほか)など
総務部会	¥7,500,000	¥7,441,476	会員発送用印刷郵送(¥2,349,790)、新聞広告など(¥1,596,000)、事務局人件費(¥1,070,000)、会議(¥554,291=合同幹事会・実行委員会)、記録用ビデオ・写真撮影(¥420,000)など
財務部会	¥200,000		
協賛広告			
その他経費		¥332,447	郵便局振込手数料
予備費	¥280,000		
合計	¥35,000,000	¥42,285,043	

※ 差引余剰金 ¥13,927,002 学校後援会へ500万円、その他は今後

ライバルは好敵手

湖陵18期 田巻 恒利

湖路ふるさとカルタ協会会長

まず、学友たちの順不同と敬称

略あやふやな記憶を辿るので思い違いをお許し願いたい。私たちは昭和38年春に富士見町の校舎に入學した。戦後に大勢生れた所謂「団塊の世代」なので激しい受験戦争に巻き込まれ、高校合格通知書は輝いて見えた。

入学式の来賓挨拶で前年釧中・湖陵50周年事業を終えた中川久平同窓会会長から「君達の未来は努力次第で開かれる、湖陵合格が目的ではない。湖陵生は決してエリートではない勘違いするな、よく勉強しろ油断するな」と叱咤激励される。

各学級とも男子が多く女子が少ない数で音楽・書道・美術の芸術選択科目別に9学級に分かれた。3日後、湖陵応援団の三上定男副団長が団員を従え教室に入り壇上から「湖陵合格おめでとうとチャホヤされるのも昨日までだ。」と小柄な体格から声高く「これから新入生は体育館で校歌・応援歌の練習を行い全員に湖陵魂を叩き込む。校歌を歌えない者は湖陵生

徒を名乗るな」と厳しい。

3年間で教科担当の先生達は全員個性豊か。元軍人の先生は男子に厳しく女子に優しく印象。教科書の授業を早く終えた別の先生は恋愛経験を交えた恋愛論に生徒が真剣に聞き入る。世界三大美女の話になると授業そっちのけで話に熱を入れる先生。男優チャールトン・ヘストン似の先生は紫色靴下がご愛用で多くの女子が憧れ。生徒の質問にいつでも回答するかのよう

に参考書を抱えきれないほど持って教室に入る先生。夫婦共稼ぎで当時庶民憧れのマイカーで通勤の先生。白衣姿が眩しい生物・化学・物理の先生。当時の釧路は泥んこ道だらけで年中長靴で通勤の先生。生徒一人で教員住宅を訪問すると秘密にするから公言するなと言いながらウイスキーを紅茶に入れて生徒をもてなす先生に「紅茶おかわり、もう一

杯」とは言えなかった。

無愛想にひたすら板書だけの授業の先生は生徒の内職(隠れて雑誌読み・別の教科を自習・五日並べ・伝言メモ回し・早弁食いなど)がし易かった。しかし11月、10月11日の団体貸切車両増結による修学旅行が迫った頃、その先生は突然授業で「君達、東京・大阪・京都の旅は大方始めてだろう。自由行動の都会で一番困るのはトイレだ。こんな時どうする。都会では、その時にデパートは勿論パチンコ屋・映画館に駆け込んでよい」と秘策開陳。当時の高校生は喫茶店・パチンコ屋へ入場制限されていたので先生の非常時対応力に飲

喜。国語授業の始まりは決まって漢字書き取りテストが恒例の先生がいて笑顔の影に生徒を締め付けると不動明王の顔が浮かんだが書き取りは、後で役に立った。

海霧がかかり易い夏の釧路は晴れの屋外が恋しい季節。晴れた日に学級長が屋外授業を交渉に教科先生の所へ。願い叶って徒歩5分ほどで春採湖へ行きボートに乗るとか散策で太陽を浴び授業。

定期試験が終わると夏はクラス対抗提灯行列の組み立て、秋は文化祭でクラス対抗の舞台演技練習に放課後を費やし青春を謳歌する。行灯制作は照明に懲りすぎると蓄電池が増え行列当日、担ぐ時



出世坂で大変なことになるとはだれも気がつかない。文化祭で舞台衣装に凝ると衣装の調達で苦勞し町中ウロウロ探し求める。

2学年になると本人の進路希望によりクラス替え。A・B・Cの3組は教科に簿記などが加わるので女子が多く男子は少ない。D組からH組まで6学級は数学教科書が別で男子が多いクラス編成。

湖陵伝統行事のひとつ、ウサギ狩りは終戦まであった軍事教練授業の名残り。凍りついた荒野を巡るウサギ狩りは將軍家の鷹狩にならう軍事演習であり、考えてみたら学校の遠足だつて行軍の予行演習に違いない。それは兎も角、ウサギ狩り事で大栗毛へ集合

したのが1年生の時、鶴居へ新富士駅から村営簡易軌道で荒野を指したのが3年生の時、これが湖陵ウサギ狩り伝統行事の最後と聞くが、2回とも猟銃の発射音を聞いたウサギを見たことがない。

学校マラソンは、学校グラウンドがスタート・ゴール。コースの起伏が多く辛くて、走っているか歩いてるか頭の中がボツツとして分らない。特に苦しいのは春採湖沼尻から春採中学にかけての長く急な坂道だった。息が苦しく前に進まない、しかしゴール近くの住吉町は女子高の市立星園高校で女子生徒大勢が窓から黄色い声を

張り上げて声援してくれることを想い浮かべて必死になる男子走者は、うぶな単純脳神経。

昭和39年初冬は2年生で修学旅行の列車の窓からその年開通した東海道新幹線で走る列車を見た。自由行動の東京は東京五輪開催が終えたばかり。多くの国道基点であることに興味があり日本橋に出かけた。橋の上に東京五輪を前に完成したばかりの首都高速道路が掛かっていて未来都市東京を見たのが半世紀前。

湖陵在学中スポーツで活躍した学友を紹介すると、新潟国体に2年生で出場したボクシングの武田寛は早大へ。3年生で全国高校総体に個人出場した剣道の鎌田隆良は栃木県警、岐阜国体に出場した剣道団体戦の鎌田隆良、中里英敏は亜大卒業後岩手県庁へ。

卒業後の進路は受験を控え我々団塊の世代に狭き門が待ち構えている。18期生の進路は、浪人を含め東大、東工大各1名、北大27名、東北大3名、東京6大学の有名私立大25名以上、北大を除く国公立大25名ほどだが正確な数字は覚えていない。その近年まれな好結果に先生方も大満足。

社会人になると当時の肩書きで紹介するが私の記憶は怪しいので誤記・記載漏れはお許しを請う。常呂町長の井原久敏、東大卒業後に

総務省事務次官をへて内閣官房副長官の滝野欣弥は釧路市の顧問弁護士、釧路市教育長の上原文和、横浜市議の高梨晃嘉、多摩市議の富所富雄、根室支庁長としてビザなし交流訪問団を見送った村井茂は道栽培漁業公社、大学教授では東京電大の荒巻淳一、道医療大の及川恒之、道工大の鈴木憲三、釧路高専の依田有康、医師の近藤敦、我妻浩治、前田修一、駒木根武利、歯科医師では医科歯科大卒の佐藤義広、日大卒の本間栄一などの学友は郷土の誇り。

高校教員の鏡但、小林静男、尾坂京子、学校長の小西文典、長根輝義、高松幹雄、細川静男、一戸陽子、大学教員で岩崎一郎、札大谷短大の加藤久恵などの学友は地域住民に広く親しまれた。

経営者では東証1部上場で住友電設役員の本菅賢弘、コーチャンフォーなど書籍9店を全道展開するリライアブル社の佐藤俊晴、三輪商会の岡本憲明、贈答

の富士社の石川宏、関西で織維卸の原田祐輔、税理士の浜村裕章、宮脇土建の濁沼英一は湖陵同窓会

副会長で釧中・湖陵百周年の大事業をこなした。葵建設の工藤芳勝、大栄運輸の佐藤重則、藤田印

ラッグストアの一杉珠美、ブテツタイフの羽生武喜、五味ホテルの五味卓夫、原商店の原豊和、名和商店の名和幸彦、矢沢商店の矢沢啓司、ロシア料理店ルパシカの渡辺貞の学友たちは全国・道内・地域のそれぞれで活躍。

公務員や団体勤務、会社勤務では税務署長の池田芳幸、北大出の福田信は拓銀からコープ札幌副理事長、環境省ピジターセンターの若山公一、NHKディレクター

の細谷正美、早大出の中川進幸は道新から道新観光社長、北大出の林正樹は王子製紙の子会社社長、王子板紙の白石敏

明、慶大出の稲葉聰はニッカウイスキー、八王子市職員の安岡正治、釧路市選挙管理委員会事務局長の竹内博文、釧路動物園長の高橋利雄、釧路商工会議所の種市次也、市保育園長の根本かずゑ、労働者健康福祉機構の鏡寛、釧路信金の田中

章夫、三輪商会の成田陸治、浜中農協参事の野田哲治、教員の大山圭也、病院薬剤師の木村久子、四



家ヒロ子、弓削見栄、養護教諭の須磨真知子、看護師の佐々木恵美子などの学友らは誠・勇・愛の湖陵魂を發揮し見事勤めあげた。

異色分野では釧路新聞で風刺漫画を1万点超えて連載の岩間宏、東工大卒でペリヤード世界大会日本代表の角田肇、志摩馨の筆名で小説を書く大谷悟、ダンス教室の平順子、京都南座の檜舞台を踏む日本舞踊の井原桂子、武蔵野音大卒で広い人脈を持つ三上希予子は東京湖陵会副会長などの学友が揚げられる。

もつと学友の名を揚げたいが紙幅が尽きた。

2年後の平成28年は18期生が湖陵卒業半世紀を迎える。記念大会を開き学友たちに会いたい、それまで互いに元気でいたい。

受験、入学、就職、結婚は人生につきもので、それら人生の岐路「狭き門」に団塊の世代は大勢押しかけ同世代の多くのライバルとのぎを削り熾烈に戦った。戦い終えて人生の秋を迎えるとライバルは己を鍛え上げ研鑽するのに欠かせない好敵手、戦友だったに違いない。湖陵同期の桜有難う。母校湖陵有難う。

(参考資料 平成19年湖陵18期還暦記念同期会 記念誌)

親子三代 釧中・湖陵百年紀

市立清明小学校のほど近い住宅街にある、自宅を兼ねた書道教室「綵水会(さいすいかい)」。ここに柴田脩生さんをはじめとする親子三代の湖陵生・OBが暮らしています。

当主の柴田脩生さんは湖陵10期(昭和33年卒)。すでに仕事を引退され、娘の阿部素子さん(湖陵37期・昭和60年卒)や孫の美也子さんらに囲まれ、悠々自適の毎日を送られています。

そんな柴田さんの実家は、もともと南大通2丁目にあった老舗の履物店「柴田履物店」。かつて夏の盛漁期ともなると、仕事に欠かせないゴム長靴やカッパを求める大勢の漁師たちで賑わった店でしたが、昭和30年代に富士見坂が開通して以後は人の流れが変わり、さらに200カイ



右から柴田脩生さん、阿部素子さん、阿部美也子さん

エンジニアとして勤めていましたが、店を切り盛りしていた母親の病気によりやむなく帰郷。母親の右腕として家業に専念しましたが、廃業後は釧路北病院や中央病院の事務職員として長く勤めました。

ちなみに、市内春採で薬局を営んでいた兄・秀一さんは湖陵7期(昭和30年卒)、娘の素子さんと同様、函館市で書道講師をしている姉の弘子さんは湖陵5期(昭和28年卒)という湖陵生一家でもあります。

そんな家系に育った素子さんは、幼い頃よりクラシックバレエを習い、湖陵高では新体操部と書道部に在籍。1年生からレギュラーを勤めた新体操部では2年

続けて全道大会に進み、団体強化選手に選ばれているほか、書道部でも3年連続で全道大会に進むほどの成績を残しています。書道教

女系に受け継がれた「文武両道」の血脈

柴田脩生さん、阿部素子さん、阿部美也子さん

師を目指して進学した大正大学では、東洋哲学や中国学を専攻、大学院を経て教員免許と書道師範の資格を得ています。帰郷後は民間企業に就職しましたが、やがて結婚・出産後は子育てに専念、念願の書道教室を開いたのは、12年ほど前のことでした。

祖父・母から続く、優秀な遺伝子を受け継いだ3代目の長女・美也子さんも、素子さんと同様、幼

い頃からクラシックバレエに親しむと同時に、冬場はスピードスケートの選手もこなすという「文武両道」の毎日を送り、平成24年に湖陵67期生として理数科に入学した才媛です。

学校ではチアリーダー部の副部長として、野球部の地区決勝戦や全道大会に同行、選手たちに熱いエールを送り続けたのは記憶に新しい出来事です。学外では、こ

れも小学生から続けているボタニカルアート(植物細密画)において素晴らしい才能を発揮。昨年開催された国立科学博物館主催の植物画コンクールでは、最高賞の「文部科学大臣賞」を獲得しました。このコンクールでは、次女の華也子(かなこ)さん(青陵中2年)も佳作を受賞。共に将来を嘱望される頼もしい三代目となっています。

西村 貞広(湖陵30期)



チアリーダーで活躍する美也子さん

釧路教職員湖陵会

葭本さん講演 私の人生。なんといい気分!

釧路教職員湖陵会（奥田泰朗会長・湖陵24期）の研修会と懇親会が、2013年12月7日に釧路プリンスホテルで開催されました。

会員相互の研修を目的に、教員以外の異業種の湖陵同窓生を迎えて開いている意義ある講演会で、本年度は北海道釧路湖陵高等学校創立100周年・定時制90周年記念実行委員長として大役を果たした、よしもと歯科診療室院長の葭本正美氏（湖陵24期・理数科1期

生）を講師に迎えました。

葭本氏は、（社）釧路のぞみ協合理事長、国際ロータリー二五〇〇地区ガバナーなど多くの役職に就いていますが、新川小学校、景雲中学校、湖陵高校出身という根っからの釧路っ子です。

夫人ともども、子どもたちの教育には力を入れ、今までの子育てには「後悔はない」と力説し、「子どもたちと遊ぶのが大好き。小中学校の参観日には常に参加してい

た」そうです。

湖陵高校を卒業後、日本大学歯学部に進学し、ユニークな学生時代を過ごしました。土、日曜日には三浦半島のヨット、平日にはデイスコ通いと、「ただただ遊んで卒業した歯学医大生だった」と笑って話していました。

自らの学生時代の反省からか、長女と長男には幼少時からきちんと教育計画を立てて、指導に当たりました。2人の子どもは湖陵高校理数科に入学、卒業後は医科系の大学を卒業しました。現在は2人も長男は葭本氏の主治医になっていくとのこと。

さらに若いころを振り返り、
「中途半端な私は良かった。人生はわからないもの」と達観したうえで、信条として「人と比べない」「現状を明るく受け止める」「心配しない」「頼まれたことは神様からの贈り物」「子どもに自立心を持たせる」「ほめて育てる」を挙げ、「人生そこそこ！人生たまたま！」と明るく軽快に述べられ、講演を終了しました。

懇親会の席上、葭本氏の講演に對して会員から感謝の言葉が寄せられ、無事に幕を閉じることができました。感謝。感謝。

川端紀一（湖陵11期）

1月19日は大鵬の1周忌。大鵬を知ったのは、早稲田の3年生の3月。例年3月になると、長兄が仕入れのために上京するので上野に迎えに出る。秋味と筋子を持って来てくれるからだ。兄は上野の車坂にある佐々木運送店で旅装を解く。仕入れた商品を釧路に送るためだ。上野駅で兄は「今度、弟子屈から納谷つのが二所一門に入った。こいつは前捌きが上手い。身体は柔軟だし、将来の大家だ。二所一門の荒稽古が横綱にしてくれる筈だ」という。その時は、貫つた筋子が気になって、早々に兄と別れた。

米子出身で、鏡里のいた糸川部屋に下宿した学友の米山君に見学を頼み込んだ。ある日、客間に一人、別格の大人（たいじん）がいた。何処かで見人だと思つて聞いてみた。毎日新聞の相撲解説欄を担当していた「相馬基さん」だと判つた。この人に納谷幸喜の将来について聞いてみた。相馬さんは即座に答えてくれた。前捌きの良い事、懐の深い事、二所一門の荒稽古に音を上げない事などから、柏戸と並んで横綱になると太鼓判を押してくれた。「君との関係

私と大鵬

は？」と聞かれた。「私の田舎の出身です」と答えると「そうか未だ幕下にもなっていないのに将来を聞くから不思議だと思つた。彼は将来大物になるよ」と言ってくれた。

大鵬が未だ幕下の時代は米山君を利用して大鵬の相撲を応援した。水をつける手桶の直ぐ後ろで応援し、勝つとそこから早稲田へ直行した。当時は厩橋まで早稲田から直行の都電があった。

勤め始めて幸運だったのは、社長が三河の出身の人で、義理で玉の海の後援会に入っていた。そのため時々招待券をくれたことだ。好きなら上げると言ってくれて、三場所くらい蔵前に行った。私の応援は「大鵬ではなくて納谷だった」。然し大鵬とは良い四股名を貰ったものだ。それまでは○山、△川が主流だったが、それから乱れたとも言える。モンゴルから大挙して力士が来たり、タンゴの国やヨーロッパからも参加するようになったから、四股名も変わりに変わった。

私の青春を語るとき、大鵬は欠かせない人であった。

舟崎明雄（湖陵5期）

同窓会だより 新会長に島本氏

平成25年度釧中・釧路湖陵同窓会(栗林延次会長・湖陵17期)

が8月10日に釧路キャッスルホテルで開かれ、約500人の同窓生が参加しました。栗林会長が「100周年記念事業は無事に終了した。200周年に向けて絆をさらに深めよう」とあいさつ、続いて釧路湖陵高校の宮下祐司校長が「新たな歴史づくりに一層の支援を」、暇名大也釧路市長(湖陵29期)が「新世紀を迎えた学校の



パワーアップにまい進したい」と祝辞を述べました。

議事では、栗林会長が会長を退任、島本幸一幹事長(湖陵19期)が会長に選任されました。また、同窓会から同校の後援会に対し、部活動などへの支援として500万円寄付することも決めました。

星 匠(湖陵30期)

句集「棺(基)」

日本(一行)詩大賞を受賞

大道寺将司(湖陵19期) 死刑囚が獄中から刊行された句集「棺(基) 大道寺将司全句集」(2012年太田出版発行)が昨秋、第6回日本一行詩大賞の俳句部門で受賞、授賞式に代理出席した親戚が副賞30万円とともに受け取った。

田巻恒利(湖陵18期)

故郷



湖陵卒業生が釧路を離れて生活し、久しぶりに故郷釧路駅に降り立ち、北大通を歩くと決まってこんな言葉を中心の中でつぶやきます。「駅前通り商店街なのに、まるでシャッター通り。賑わっていた

昔と違い随分寂れた」と嘆きます。でもその原因の一つが自分自身であることに気がつきません。ある調査では、生まれ育った故郷を離れて別の土地に住む人の割合は約7割と言われています。高卒後は、進学・就職・結婚・親の転勤や転職などで故郷を離れます。

また商店街のシャッター通り化は釧路市に限ったことでなく大多数の地方都市で起こっています。花形産業だった炭鉱や輸出産業が円高による後退、魚業は漁場と消費の減少で輸入品増大、車社会への移行と郊外型量販店の進出、米国の圧力で所謂百貨店規制法の消失などその理由は幾らでも挙げられます。映画カサブランカの中でアズ タイム ゴーズ バイ(時の過ぎ行くままに)のジャズピアノ曲が流れ弾き語り「男は仕事を求め故郷を離れ、女は男を求め故郷を離れる」と歌います。この名曲、名画を思い出しました。

田巻恒利(湖陵18期)

編集後記

「〇月〇日、くまざさ編集会議を開催します」と田巻編集委員会事務局より電話が入ります。事前に予定が入っていなければ、すぐ

に出席と答えます。会議当日、みんな「にこにこ」しながら栄屋旅館に集まります。今の編集委員は、まずほとんど欠席することがありません。編集内容については、学校より何らかの要請や同窓会から内容について制約がある訳でもなく、自由きままに発行してよいことになっていきます▼しかし、編集委員の心は、同窓生には今ある学校の姿や同窓会の思いを伝える事、将来の同窓生(生徒)には同窓会の楽しさ、学校・先輩の良き伝統を伝える「くまざさ」を作ろうとの熱い思いが、時には脱線しながらも、自由闊達な意見となって議論が交わされます▼同窓会からは食事代の補助を頂く程度で、無償で、会議を開催!もうどれくらい続いている事でしょうか。編集委員のメンバーは変わっても、このスタイルは変わりません。「編集委員のみんなすごい!それを束ねる星編集長は



(前列左から) 田巻恒利、佐藤文昭、増子正樹
(後列左から) 須貝喜治、西村貞広、渋谷倫之、星匠

すごい!」と感心しながら参加し、勝手な思いつきを愚問で言っていたら「会計長、編集後記を書いてください」といきなり振られました▼私が書いていいの?そうか、いつのまにか私も編集委員の一員になっていました?私も、みんなと同じ思いで、これからも「くまざさ」の紙面作りに協力してまいります。同窓生のみなさん、紙面に要望がありましたら、田巻編集委員会事務局に連絡を待っております。

佐藤文昭(湖陵22期)

釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryuohp.inetseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 川端紀一(湖陵11期)
- 編集委員 増子正樹(湖陵20期)
- 編集委員 渋谷倫之(湖陵26期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-0014
釧路市末広町2丁目4番地
栄屋旅館内
TEL0154 (23) 0241
手動切替FAX
0154 (23) 0242